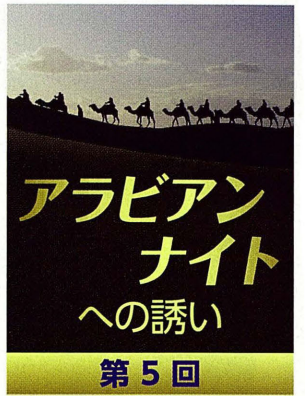


みんなくりポジトリ

国立民族学博物館学術情報リポジトリ National Museum of Ethnology

ウイグルのアリババ：
シルクロードのアラビアンナイト
(アラビアンナイトへの誘い, 5)

メタデータ	言語: ja 出版者: 公開日: 2015-03-23 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 西尾, 哲夫 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/10502/5573



夢と不思議が錯綜するアラビアンナイトの世界を旅してみましよう。第五回は「ウイグルのアリババ―シルクロードのアラビアンナイト」。アラビアンナイトの枠物語は仏典との深いつながりが指摘されています。

ウイグルのアリババ ―シルクロードのアラビアンナイト

文・写真
西尾 哲夫
text & photo by
Nishio Tetsuo

京都大学大学院文学研究科博士課程修了。文学博士。東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所助手、同助教授を経て現職。現在、人間文化研究機構・国立民族学博物館副館長／教授、総合研究大学院大学教授

……古代ペルシアの王朝であるササン朝はインドにまで領土をひろげ、周辺に浮かぶ大小の島々を支配し、ガンジスを越えて中国へといたる地域を統治いたしました。この王朝の年代記が伝えるところによりますと、大王たちの中に人並みすぐれて世に秀でた王がおられました。王

は知恵と深慮のゆえに民からは慕われ、武勇と精強な軍隊ゆえに隣国からは恐れられておりました。王には二人の息子がいました。兄王子の名はシャフリヤール。父王の後継ぎたるにふさわしく、あらゆる美点を備えておりました。弟王子の名はシャフゼナン。弟王子も兄に似ても劣らぬ美点の持ち主でありました。(『ガラン版千一夜』《枠物語》より)

千一夜にわたってつづけられる長大な物語は、このような一節で始まりです。題名こそ「アラビアンナイト」ですが、ペルシアの宮廷で語られた話という設定になっています。「ガンジスを越えて中国へといたる地域」という一文からもわかるように、ペルシアの王妃シエハラザードが語る夜話の聞き手となるシャフリヤール王の領土は、現在の

シルクロードと重なっていました。弟王シャフゼナンはサマルカンドを治めていましたし、比較的早い時代につくられたと思われる《せむし男の物語》も、カシユガル(現在は新疆ウイグル自治区)の町が舞台になっています。

シャフリヤールとシャフゼナンの兄弟王は、ともに愛妃に裏切られて絶望の淵に沈みます。この兄弟王をめぐる物語については、北アフリカに伝わったアラビアンナイトの姉妹版ともいえる『百一夜』や、漢訳仏典である『旧雑譬喻経(くぞうひゆきょう)』(巻上第十六話)との類似が指摘されてきました。

『旧雑譬喻経』は中国語(漢訳)のみ伝わっており、原典の存在は確認されていません。漢訳した康僧会(こうそうえ)は、三国志に登場する呉の人。二百八十年に没したとされています。僧会の父は生国のインドを出ると交趾(ベトナム北部)で商業を営んでいたようですが、姓からもわかるように彼の一族は康居(後の康国＝サマルカンド)出身のソグド人だったようです。原典が残っていないため、確かなところは

はわからないのですが、僧会が耳で聞いた伝承などが經典中の説話として記録された可能性もありそうです。



木の上の兄弟王を誘う魔人の妻(アルバート・レッツフォード画)

『百一夜』や『旧雑譬喻経』に入っている物語は次のようなものです。

……インドの国王が鏡にうつる自分の姿に見とれ、自分よりも美しい者がいるだろうかと問いかけると、一人の老人が王よりも美しい若者を知っていると云う。老人は王命をうけて若者を迎えに行く。若者は同意して家を出るが、忘れ物に気づいてもどったところで妻の不貞を知り、悲しみのあまりに美貌が失われてしまう。若者は悄然としたままインドの王のもとに行くが、王妃の不貞を目撃する。インドの王でさえ妻に裏切られるのだと思うと、にわか

に気が晴れて美貌が回復した。若者の美貌が戻ったことを不審に思った王が理由を問いつめたので、若者は王妃の一件を知らせる。

この後、『旧雑譬喻経』では、王と若者はともに出家してしまうのですが、アラビアンナイトでは、王妃の不貞を知った王は、王妃とその愛人を殺してしまいます。

さて、シャフリヤールとシャフゼナンの兄弟王は、王妃を殺すと宮殿から

出奔します。とある木陰で休んでいると、ガラスの櫃を頭に載せた魔人が舞い降りてきました。魔人が櫃につけられた四つの鍵をあけると中から美女が出てくるのですが、やがて魔人が眠ってしまふと魔人の妻である美女は兄弟王に情事を求めてくるのでした。この話も『旧雑譬喻経』に同型のものが入

っています。

……素行の悪い生母を避けて出奔した王子が、山中でバラモン僧と知りあつた。バラモン僧は口から壺を吐きだすと、その中から女人と小部屋をとりだして寝てしまつた。すると女人が口から壺を吐きだし、その壺の中から男をとりだして同衾した。事がすむと女人は男を壺にいれてその壺を飲みこんだ。目をさましたバラモン僧は女人と小部屋を壺にいれてその壺を飲みこみ去つていった。『旧雑譬喻経』巻上第十八話

この話はアラビアンナイトの愛読者でもあつた泉鏡花が『知つたふり』という小編で紹介しています。鏡花によると、同じような話は中国の志怪書『続齊諧記』（呉均、四六九〜五二〇）

にもあり、漢籍をつうじて日本でも知られていたようです。

「開け！ ゴマ」の呪文でおなじみの『アリババ』も、ガランの原作ではペルシアが舞台になっています。

『アリババ』では、アリババや賢い女奴隷のモルジアナが盗賊を相手に丁々発止の知恵くらべを演じます。アリババ側と盗賊の駆けひきについては、ヘロドトスの『歴史』に登場する説話との類似がはやくから指摘されてきました。これは古代エジプトの伝説上の王ランプシニトスと宝蔵破りの兄弟をめぐる話です。ランプシニトス王の話は、中世ヨーロッパで広く流布した『七賢人物語』という説話集にも入っており、日本の『今昔物語』にも同型の話があります。

シルクロードを旅したのは、物語のパターンやトリックの型だけではありません。ウズベキスタンの古都ヒヴァを訪問したとき、街角のみやげもの店でアリババの人形を見かけました。原作どおり老人の姿をしています。店主によると、アリババはウズベキスタンでも人気ものだそうです。

アラビアンナイトの原型となつた『千物語』は、インドやイランで伝えられていた説話などを集めて、ササン朝のペルシアでまとめられた物語集だったのでないかとされています。中央アジア出身の仏僧が漢文で書き記した物語と同じ話で幕をあけた長大な夜話集

は、貯水池の水があふれていくつもの水流となるように、シルクロードを縦横に駆けめぐり、新たな物語をうみだしてきたのです。



ヒヴァの土産店「アリババと40人の盗賊」でアリババ人形を手にする店主

P34~40

シルクロード・中近東への旅行はP34~40、54・55をご覧ください。

西尾氏が副館長を務める

国立民族学博物館(みんぱく)

「地の先へ。知の奥へ。」をモットーに、展示や情報発信を通じて、人間文化を探求への旅へご案内します。

〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園 10-1
TEL: 06-6876-2151



西アジア展示のなかの楽器コーナー